

文化活動・交流の拠点

ふれあい倉庫「赤れんが6号」

## ふれあい倉庫創業祭 2013 ～ 地産地消 ～

8月4日(日)9時30分～13時

※創業祭終了後は通常営業(18時まで)します

ふれあい倉庫は皆様に親しまれ、今年で6年目を迎えます。日頃のご愛顧に感謝を込めて、創業祭を開催いたします。

販売コーナーでは旬な朝採り夏野菜や加工品を多数販売するほか、限定商品の販売やセール品の販売も予定しています。ふれあい倉庫スタッフ一同皆様のお越しをお待ちしております。

### 試食コーナーもあります！

#### 「当別産ピザ」

当別高校家政科生徒が、ふれあい倉庫のパン窯を活用し、当別産の小麦粉と野菜を使用した絶品ピザです。

#### 「きゅうりの佃煮」

当別町食生活改善協議会プロデュース！

### 当別観光情報プラザ FIKA(フィーカ)

#### 【ミニギャラリー情報】

うるーうる  
Heureux 作品展

▼期間 8月7日(水)～30日(金)

▼内容 タイルクラフトの展示です。

▼問合せ うるーうる Heureux 主宰 土屋幸恵  
(☎ 26 - 2286)

### お知らせ

#### 《ミニギャラリーで作品の展示をしませんか?》

FIKA では作品展などが可能な展示スペースを貸出ししています。展示会を開いてみたい等のご希望がありましたらお問合せください。

▼問合せ ふれあい倉庫 (☎ 27 - 6600)  
FIKA (☎ 27 - 5388) 商工課 (☎ 23 - 3129)

続

## 町長の日記

平成 25 年 7 月 22 日(月)

今日が最後の町長日記になった。

私は 12 年前に町広報担当の職員に広報にエッセイか何かを書くように薦められて、難しい文書は書けないが人は旅する時、日記を書くように自分は今から今まで歩いた事もない道に行くのだから日記を書くことにしようと思った。

日記と言えば「土佐日記」<sup>かげろう</sup>「蜻蛉日記」「更級日記」など有名な日記が数々あるが、我が家にちょっと興味がある古文書で「歐州書翰集」と言う日記のようなものがあり、数年前に郷土史家の坂田資宏先生に解説して頂いたところ、明治 19 年に伏見宮殿下の<sup>ふしみのみや</sup>スウェーデン訪問記を鴨州と<sup>いずみてい</sup>言う雅号の泉亭家のものが筆で書いたものであった。

内容は日記形式でストックホルムへ行くのに 2 ヶ月かかった様子やスウェーデンの民家は石で建てていること、真夏は陽が沈まず夜中に新聞が読めることや明治 6 年に岩倉大使がスウェーデンを訪れて、日本人は二度目であることなどだが、これを書いた鴨州とは実は我が家に代々保存されている<sup>かもたてつなみのみことまつえいごけいふ</sup>「加茂建角身命苗裔御系譜」によると、<sup>いずみてい</sup>泉亭の遠祖は鴨建角身命であると言う事が記されている。

一ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず一の「方丈記」を書いた鴨長明(1155～1216)も私達の先祖になるので、私の家にこんな旅日記があることは以前にもこの日記に書いた事があるが、昨年、当別町とレクサンド市の交流 25 周年記念に<sup>あずまや</sup>四阿を贈ったが鴨長明の「方丈記」の方丈とは一丈(10尺約 3m)四方の庵で四阿のことであるのも私にとっては今更にして奇縁を感じる。

渡辺大使とヴァリエ大使のお話によると、あと 5 年後の 2018 年は日本とスウェーデンの国交樹立 150 年になると言うから 5 年後は当別とレクサンドも盛大に祝い合ってもらいたいとひたすら願う。

方丈記によると鴨長明は次々に襲い来る災難や不幸に絶望するのではなく、その現実を受け容れながら小さな庵で淡々と生きていたと思うから私もこれから先はそう生きたいと思う。

そして、どんなに時が流れてもこの町の人々の御恩情を私は忘れないだろう。

当別町長泉亭俊考